

保育所児童保育要録の作成における実践現場の課題

— 事例と札幌市内認可保育所アンケート調査から —

真鍋 尚美 吾田 富士子

Abstract

With revisions to the childcare center guideline, childcare centers have been obliged to prepare children's nursery records. Therefore, we undertook a fact-finding study of record-making, and clarified the problems facing childcare centers and their staff. Herein we first provide an example of the records required, and then present the results of our investigation of registered public and private childcare centers (excluding nurseries) in Sapporo City. The results show 3 themes as follows were identified: (1) the common understanding among staff about the purpose of the record making, (2) the adjustment of contents expected for each item, and (3) the ability of childcare staff to understand and record each child's growth process. In our investigation, 70% of staff who filled out answered that the records would serve its purpose, and also 80% of approvers. However, 3 points must be noted. Firstly 30% of centers did not participate any guidance of record-making, secondly large gaps or repetitions were observed between each item and content, and thirdly records were not filled out due to concerns about disclosure requests. In addition, we found problems associated with the staff themselves, such as in terms of how to provide concise comments regarding children including their shortcomings, how to grasp growth of children, and how best to put their opinions into words.

1. はじめに

(保育所への調査への経緯)

平成 21 年 4 月 1 日に施行された保育所保育指針をうけ、各保育所では平成 22 年 3 月にはじめての保育所児童保育要録(以下「保育要録」と記述)を卒園児の就学先の小学校に送付した。¹⁾

札幌市では保育所児童保育要録の様式について様式の参考例を基に行政・公立・私立の保育所関係者で検討し札幌市独自の様式²⁾を定めた。

保育所としては小学校との連携(保育指針第 4 章 1-(3)-エ)を積極的に推進するために各園で保育要録を的確に記載することを目指し、試行錯誤をして記述することに取り組んだと思われる。

真鍋は保育団体の研修計画・実施に関わりがあり、21 年度には要録作成に向けた研修内容を企画し、保育士養成の立場として吾田に講師を依頼し、

要録記入に関しての研修を行った。22 年度も同様の研修を企画するにあたり、各園・担当者がどの様に行っていたか、21 年度の 3 月にむけて要録の記入を行う前の事前の準備、園としての取り組み、取り組んでみて感じられた問題点など、施行 1 年目の実態を把握する必要を感じた。

吾田が幼稚園・保育所から送付された要録の受け手である「小学校での実態」についてのアンケート調査を実施し、真鍋が要録を送付した「保育所側の実態」を把握するために札幌市の公私の認可保育所(乳児保育園を除く 189 園)に向けてのアンケートを作製し調査を実施した。^{7) 8)}

この紀要では保育要録作成の実態として

1. 保育要録記入にむけての具体的取り組み
まこと保育所の事例より
2. アンケート結果による内容の考察
3. 今後の課題

の3点を軸に記述していきたいと考える。

2. 保育要録記入にむけての具体的取り組み 「まこと保育所の事例」より

2-1 保育要録についての共通理解

まず要録という公的な文書を作成するにあたり、目的を明確にし職員の共通理解、保育要録に関する研修で学び、その内容について報告・伝達を行うことで共通理解を図ろうと4回の異なる研修に色々な職員（立場上必要な職員は複数回）が参加した。

しかし、研修によって内容は様々であり、まだ実際に行われていないことから、具体性にやや乏しいことが多く、中には「開示を求められる可能性があるので問題になりそうなこと（本当のこと）は書かない方が良い」と消極的な意見を述べる講師もいて、園のモデルとして取り上げることは難しいと考えた。

要録記入については「保育指針にあるから仕方なく行う」のではなく「何のために行うか」という明確な意図をもって積極的な姿勢で臨まなければ、子どもの姿を的確に記入することや小学校と良い連携を築くことは難しいと考える。

そこで、要録記入の課題を探るところから園として取り組むこととした。

2-2 保育要録記入の課題の洗い出し (園内研修として)

保育士にとって今まで記入したことのない保育要録作成を身近な業務とし、その課題を見つけるために、全保育士が「年長の特定の1名について」実際に記入してみることから始めた。

記入する児童1名の姿については2歳以降～年長前期まで年2回保護者に渡している「げんきつき」(児童の現在の姿、課題、保育者の援助について記載したA5判のもの)^{4) 5)} 9枚に掲載された児童の姿を基にして、後は札幌市の保育要録の様式²⁾と同じく配布された「記載の手引き」³⁾を自分なりに読み取った事を基に自分の判断で記入することとした。

実際に、一人の児童についてそれぞれの保育士が記入したものを照らし合わせることで下記のような検討すべき点が明確になった。

① 記入者によって同じような内容を記入して

いる項目が異なる。また、その人の理解によって項目の捉えが異なる。

- ② 一枚の要録の中に同じような内容の事柄が繰り返して書かれている。
- ③ 同じ事柄が繰り返して記載されていることによってその部分が強調され、却って児童の全体像が伝わりづらい。

この実態を受けて、「記入の手引き」は尊重しながらも、一読した時にその児童の姿が頭の中にイメージできるような端的に記入した保育要録を目指して記載内容について精査することとした。

2-3 項目ごとの内容の精査

保育要録の項目の内容を精査するに当たって、まこと保育所として「保育要録を何のために作成するのか」の意図を明確にして共通理解をはかることが必要と考えた。

- ① まこと保育所に在園した児童について要録は保育所生活の最終的な個人の記録として保存する。
「げんきつき」^{4) 5)}は成長の過程の記録として継続して作成し、保育要録は保育所卒園時の姿と主な在園中の成長も含めて作成する。
- ② 小学校との連携のツールとして機能させるためにその児童の姿がイメージできるように「持ち味(心情・意欲・態度)の特徴」「持っている力量」「自己発揮のために必要な援助」などが読み取れるように記す。

上記2点を意識し保育要録のそれぞれの項目にどのような事を記すかの規準を次のように申し合わせた。

子どもの育ちに関わる事項&特記事項

【子どもの育ちに関わる事項】

- ・ 家族構成
- ・ 入所時の年齢(〇歳〇ヵ月で入所)
- ・ 保護者の養育姿勢、保育所との関係性
- ・ 養育へのサポートの状況
- ・ 入所前の集団経験・関係機関

【特記事項】

- ・ 基本的な性格
- ・ 特筆すべき精神面での育ちや変化

養護に関わる事項

〔生命の保持〕

- 生活面における特記事項
- 健康を維持するための状況について
(子どもの回りを取り巻く生活状況など
生命の保持に関する事柄)

〔情緒の安定〕

- 情緒的な安定(P.D.Dなども含め)の状況
不安定になる場合はその要素(きっかけ・状況)と
解決にむけての援助の視点や具体的な方法

記入に当たって配慮・努力すること

- 字を大きく、はっきりと書く
- 読みやすい字・わかりやすい表現で書く
- なるべく短い文章で書く(主語・述語・起承転結・助詞の使い方に注意)
- 同じ様な内容・事柄は一番アピールしたいところ一箇所に書く
- ざっと読んで子どもの姿が浮かぶように書く
 - ー 相手も専門職である事を意識する
- 読んで良かったと感じて貰える様に書く

子どもの健康状態等

- 体位・体格(具体的な数値)
- 運動能力・身体機能について生活に関わる特筆すべき事柄
- 保育日数 (昨年度の反省から)
- 出席・欠席数(土曜日出欠の状況)
- 特筆すべき欠席の理由
繰り返しの疾病、心理的な場合、理由がない等

教育に関わる事項 №1

〔子どもの発達の姿〕

- 子どもの5領域に関する力量は、各視点のポイントを中心に「主に伝えたい内容」についてを記述する。(文頭に・箇条書きで)
健康 — 身辺自立・生活習慣・健康安全への意識や意欲・運動面の力量など
人間関係 — 保育者等身近な大人との関係性、友達との関係性(自己発揮・受容)
環境 — 遊びを見い出したり、創り出したりする力。

教育に関わる事項 №2

- 言葉 — コミュニケーション力:対大人:対子ども
(想い・考えの伝達・聞く力・理解力)
- 表現 — 描画・造形・身体表現・ごっこ・創意工夫・イメージ

〔指導に必要と考えられる配慮事項〕

- 「子どもの発達の姿」の欄に記載した姿(子どもの力量)を子ども自身が発揮するために行った或いは必要な援助について方法等を具体的に記載する。

以上について保育要録を記入する際に意識することで個々の児童の全体像が読む相手に伝わるように心掛けた。

「特記事項」については、記入するどの項目の記述にも反映されるような「個々の児童の持ち味・性格等とその児童に対する援助の視点」を記入するようにした。

その上で読み手がその視点を意識できるように特記事項とあるスペースの先頭に「児童の性格や特徴」と書き入れるようにした。

2-4 まこと保育所の取り組みのまとめとして

要録の一つ一つの小さな項目に個々の児童の姿を的確に記入するためには、保育者の子どもを捉える力とそれを相手に伝わるように言語化する力、成長の過程について把握していることが求められると感じた。

まこと保育所では平成14年度より「げんきっき」⁴⁾⁵⁾に取り組んできたこと、個別の支援を要する児童の記録⁶⁾を作成してきたこと、支援を要する児童の卒園時、定型発達の児童に対しても転園等の際に申し送り書⁷⁾を作成してきたことが保育者の先行経験として生きたと思われる。

ただ、経験年数は様々であり、記入する児童と共に生活した時間の差や書くことの得意・不得意などもあって記入内容、表現などには差が出ていた。

保育所の公の文書として責任をもって送るためには、記入した保育者の意図が読み手に伝わるようになってきているか内容を確認しなければならない。確認にはかなりの力量が求められることから今後も研鑽を積むことが必要と考える。

保護者への開示についても在園中から成長の姿、

課題などについて共有していれば問題が生じることは少ないと考える。この点についても「げんきつき」⁴⁾や個別の支援を要する児童の月の記録⁶⁾を保護者に読んで頂いていたことは双方にとっての安心感になったと考えている。

保育要録が有効に活用されるためには、まだまだ不十分な点があると考えており、前年度の経験を生かし、よりの確に書くことが出来るように取り組んでいきたいと考えている。

3. 保育要録に関するアンケートについて

「1. はじめに」で述べたように保育要録に対してそれぞれの保育所ではどのように取り組んだか、実際に記入した時に迷ったこと、困ったことがなかったかなどについての実態を把握したいと考えてアンケート調査を行った。

3-1 アンケートの対象と実施方法

対象 札幌市内の公立・私立の認可保育園 189 園
 において 21 年度 3 月小学校に送付した「保育所児童保育要録」を実際に記入した保育士及び記入内容を確認した担当者

方法 無記名アンケート^{7) 8)}

札幌市私立保育所連合会加入園
 事務局より FAX にて、一斉送信
 日本保育協会 札幌支部加入園
 研修担当園長を通じて配布
 公立保育所

子ども未来局子育て支援部保育課
 指導担当係長経由で配布

回収方法 まこと保育所に直接 FAX 送信
 回収数 (園により複数回収があり回収率は不明)

記入者 155

確認者 122

3-2 アンケート実施のねらい

(記入者・確認者共)

- ① 保育要録作成の事前準備の状況について
- ② 項目により感じた記入の難易度について
- ③ 内容がだぶってしまう項目の有無について
- ④ 保育要録記入に関して感じた課題等
- ⑤ 保育要録の活用への期待

上記、5 点について認可保育所の実態を把握し、現在の問題点や今後の課題を把握したいと考える。

保育要録に関するアンケート (要録記入者用)
 資料 8

保育要録に関するアンケート (記入内容確認者用)
 資料 9

3-3 アンケート集計結果より

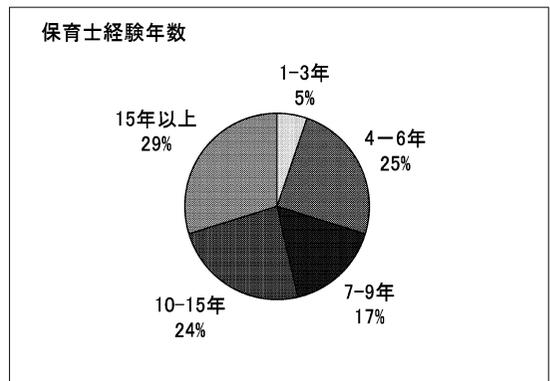
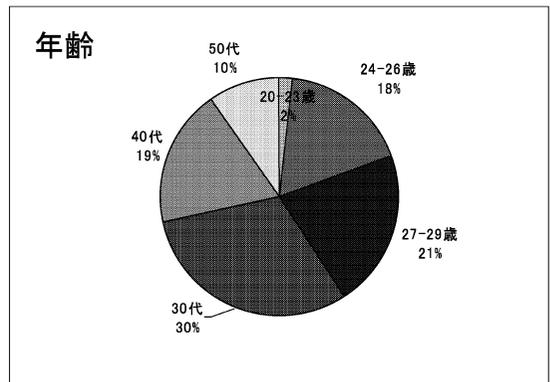
アンケートの集計結果については資料 10、11 として本文後に掲載している。

① 保育要録作成の事前準備の状況について

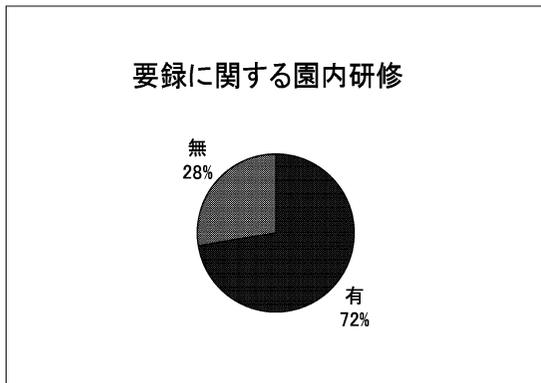
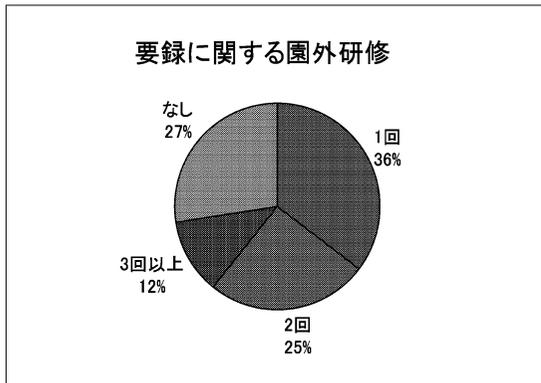
保育要録を記入した保育士の年齢と経験年数については下記のような結果となった。

年齢は 27 歳～50 代を併せると全体の 80% を占めており、経験年数を見ると、7 年以上の保育士が 70% を超えている。26 歳以下で記入者となった保育者は 20%、経験年数で見ると 6 年以下が 30% と年齢との差が若干見られる。それまでのデータがないので比較は出来ないが、21 年度については経験者を意図的に配置した園が多かったのではないかと考える。

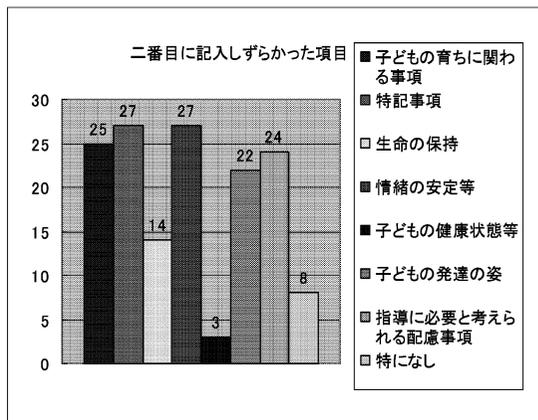
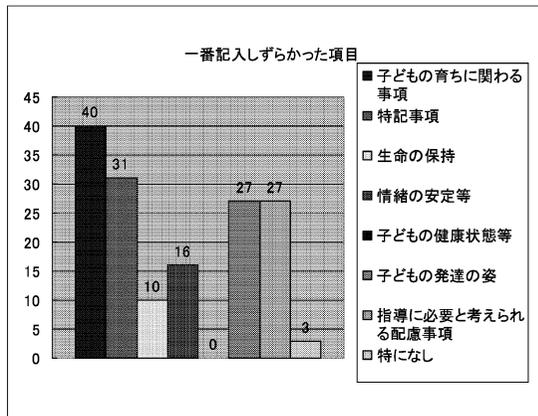
保育要録に関する研修を受けた回数の設問につ



いては「なし」の回答が27%、園内研修についても「無」が28%もあったことに少々驚きを覚えた。



<記入者>



記入内容の確認者は園長・主任が多く、園外研修「なし」は1%なので、確認者が園内伝達を行ったとも考えられる。¹⁰⁾

ただ、実施初年度ということを考えてと実際に記入する担当者が研修を受ける必要性はあったのではないだろうか。

② 項目により感じた記入の難易度について

記入する項目により感じた記入しづらさについては記入者、確認者共に「子どもの育ちに関わる事項」を選んだ方が多い。

ただ、記入者は一番目、二番目に記入しづらかった項目の結果を併せてみると「育ちに関わる事項」「特記事項」「情緒の安定」「発達の姿」「配慮事項」等がどれも高くなり「生命の保持」「健康状態」を除く項目全部に難しさを感じたという結果になっている。

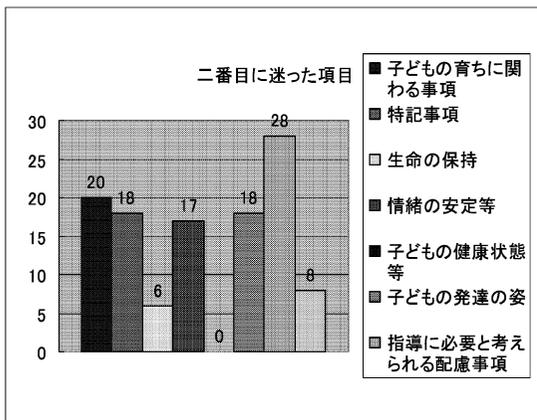
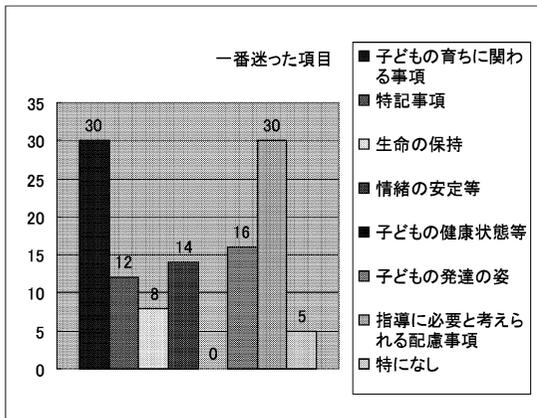
確認者が迷った項目をみると「育ちに関わる事項」と「配慮事項」が同数で、2番目に迷った項目の結果を合わせてみると「指導に必要と考えられる配慮事項」の記述を確認することに難しさを感じた方が多いことがわかる。

「配慮事項」は記入者でも選んだ方は多いが、他の項と比べると特に高いわけではない。実際にかかわりを持っている保育士が子どもの姿を的確に少しでも良い形で伝えようとする記入者の難しさと、客観的に記入されたものを読み内容が適切に表現されているかを確認する者の視点の違いや記入対象児との生活の上での距離感も影響するのではないかと考える。

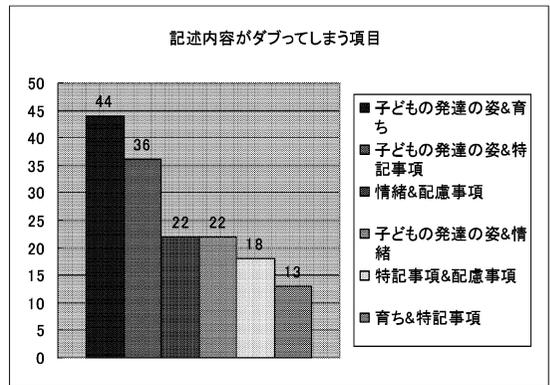
記入後何回見直したかの設問で77%の方が3回以上の見直しと答えられていることが、記入者の努力を物語っている。⁹⁾

一番迷わずに記入したり、確認が出来た項目は双方とも「子どもの健康状態」となっているのは、記入すべき内容がはっきりとしていて立場の違い

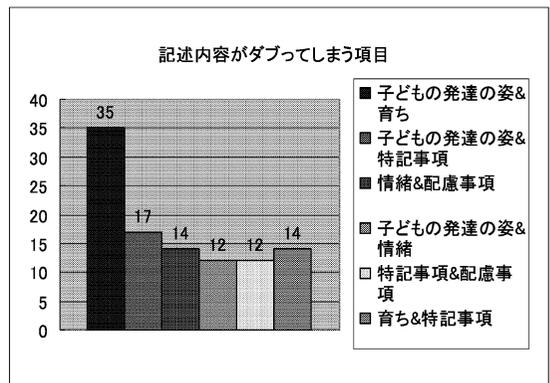
〈確認者〉



〈記入者〉



〈確認者〉



による影響がないことによると考える。

③ 内容がだぶってしまう項目の有無について

記入した内容がだぶってしまう項目の有無の設問については記入者がダブってしまうと感じた項目と確認者がダブっていると感じた項目には若干だが差が見られる。

記入者・確認者共に「子どもの発達の姿」という項目の内容が「子どもの育ち」や「特記事項」と絡んでしまうと感じているということは、読み手にとっては何回も一人の子どもに対して繰り返し同じ情報を与えられることになる。

どこでそのだぶってしまう事柄（多分その子の特性・特徴となる要素）を記入することが良いのかを記入する側が整理し、記入者・確認者で共通理解しておくことが必要と考える。

また、各自治体で定める様式なので迷いが多い点については様式や項目ごとの記載の仕方を検討する必要もあると考える。

読み手がその子の情報をいかに受け取ったか、書き手がいかに必要な情報を記入できたかが「保育要録を書く」ことの意味につながる点については十分な精査が必要であろう。

④ 保育要録記入に関して感じた課題等

「要録に伝えたいことが記入できたか」という設問に対しての解答は「記入できた」「ほぼ記入できた」の回答を合計すると、記入者では41%、確認者では52%であった。「できた子と出来ない子がいた」では記入者は30%確認者25%でその回答を「記入できた方」の傾向に加えると記入者の7割、確認者の8割位がちよっと難しかったが、まずは何とかなったと感じる結果であったと考えられる。^{10) 11)}

ただ、特定の第三者が各園の作成した要録を評価した結果ではないので、小学校の担当者に向けた吾田の調査で初年度の取組みとして適切であったかどうかの検証というか、今回の評価や課題が見えることを期待すると同時に、今後の連携に生

かせないものかと考えている。

反対に「記入するのは無理」「記入できていない」「あまりできなかった」を合計すると、記入者では28%確認者では19%であった。自分達が取り組んだ事を課題が大きかったと評価することは、今後の取組みに関して課題をもって臨み、改善していくことが出来るので今後に期待したいと思う。

ただ、初年度の取組みだけで「記入するのは無理」と消極的に捉えてしまうと、次年度以降の取組みに課題を持ち越し、改善できることもそのままになってしまうのではないかという危惧がもたれる。

そのほかの「要録記入に関して感じた課題」を自由記述の中からひろってみると

- ・開示を意識した書き方
- ・開示があるので書けない
- ・記入するポイントの整理、簡潔な書き方
- ・入園当初からの子どもの育ちに関する記録の必要性や成長の姿の伝達
- ・短所・マイナス面の書き方

などが多数書かれていた。^{11) 12)}

次に、「要録を記入する上でもっと身につける必要のあること」の設問には記入者では

- ・書くこと（文章力、表現力）
- ・成長の姿を捉える
- ・成長を見通して保育すること

といった事柄が出されていた。

確認者に項目ごとに把握しておくことについて「子どもの育ち」「養護」「教育」に関わる事項それぞれについてを設問したがどの項目においても「個人記録の必要性」があげられていた。その他にも確認者の先行経験や年齢などにより異なる様々な課題が出されていた。¹²⁾

⑤ 保育要録の活用への期待

この点においては、自由記述において

- ・小学校生活のスムーズなスタート
- ・子どもの良さを見て欲しい、伸ばして欲しい
- ・困った時に活用
- ・学校との接続や連携への期待

などが記入され、要録が子どもの生活に役に立つ事が何より期待されていると考える。^{11) 12)}

確認者には「その他 要録に関して」として項目を設け自由に記入していただいた。

その内容は、おおむね『小学校との関係についての記述』『これからの保育所の課題』『要録について』の三点の視点からの記述が多かった。その他、要望や課題、感想など内容は多岐にわたっており、資料13の後半にそのまま掲載している。

4. まとめと今後の課題

22年度は改定保育所保育指針に基づいて初めての要録の作成、送付をそれぞれの保育所で色々検討を重ねながら行った。

実践事例として筆者の保育所で行った内容と経過を一例として記載したが、それぞれの保育所でも検討されたことと考えている。今後も毎年取り組む業務として各々で検討を積み重ねることでより良い形を見出して行けると考えている。

ただ、従前から要録の作成に取り組んでいる幼稚園と小学校の連携が保育所より一歩先んじているかという点、要録の取り扱いについてはその園に任されていること、また受け手である小学校における要録の取り扱いについても「先入観を持ちたくないで見ない」「要録が送付されていることを知らない」など消極的な状況ばかりが伝えられ積極的に活用されている事例があまり聞かれない。

ただ、21年度から幼稚園が学校として位置づけられたこと、小学校の教育課程に「保育所・幼稚園との連携を図る」ことが明記されたことなどについての周知が幼稚園や小学校教員に徹底されることで、今後状況が変化していく可能性に期待したい。

小学校にとって保育所・幼稚園双方から要録が送付されることで、ほとんどの新一年生について就学前の育ちの情報が得られるようになるのではないだろうか。

そのためには「要録に目を通すことが学級経営の一助になる」ことが求められているし「要録が適切に記載されている」ことが必要であることは言うまでもない。

また、さらに一歩踏み込んだ「必要に応じて直接顔を合わせて伝達を行う」ような相互の関係づくりが望まれる。その状況を作り出すためにも、保育所においては保育要録に的確な児童の姿を記述できるように努力を重ねる必要がある。

そのためには積極的に研修を行うことが必要であるが、昨年参加した研修の中で「開示請求があ

るので問題になりそうなこと（本当のこと）は書かない方が良い」という講師の発言があったことは残念であり、不安を取り除く意図であったとしてもそのことによって要録に取り組む意欲がそがれた方達がいるということの責任の重さを受け止めて欲しいものである。

そのような言葉に惑わされることなく、自分達が行ってきた保育の中で個々の児童の育ちを捉え、送り出す立場の責任をもって、その成長や課題、力量を発揮できるための援助を記入し、その後の成長への期待を込めて要録を作成し送付したいものである。

開示請求をいたずらに恐れるのではなく、在園時に保護者と育ちや課題を共有できるような関係を築くことも大切な取り組みであることを改めて感じている。

最後に、お忙しい中、心よくアンケート調査に応じて下さった札幌市私立保育所連合会会員園の皆様、公立保育所、日本保育協会札幌支部の皆様のご協力に感謝申し上げますと共に、今回のアンケート調査に向けてご助言を頂いたり、小学校に

向けてのアンケート調査を行い、現場の保育士を対象とした研修で調査内容をお話頂いた吾田准教授、並びに集計作業をお手伝い頂いた藤女子大学の学生の方にもこの場を借りて深く感謝申し上げます。

〈注〉

- 1) 資料1 — 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課発 第0328001号「保育所保育指針の施行に際しての留意事項について」
- 2) 資料2 — 札幌市保育所児童保育要録
- 3) 資料3 — 保育要録記載の手引き
- 4) 資料4 — げんきつき（2歳時）
資料5 — げんきつき（6歳時）
- 5) 資料6 — 個別の支援を要する子の記録（様式）
- 6) 資料7 — 申し送り書（様式）
- 7) 資料8 — 要録記入者用アンケート
- 8) 資料9 — 記入内容確認者用アンケート
- 9) 資料10 — 要録記入者のアンケート集計結果
- 10) 資料11 — 記入内容確認者のアンケート集計結果
- 11) 資料12 — 記入者自由記述抜粋
- 12) 資料13 — 確認者の自由記述抜粋

〈資料1〉厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課発 第0328001号
 「保育所保育指針の施行に際しての留意事項について」

雇児発第0328001号
平成20年3月28日

都道府県知事
各指定都市市長 殿
中核市長

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長

保育所保育指針の施行に際しての留意事項について

平成21年4月1日より保育所保育指針（平成20年厚生労働省告示第141号）が施行されるが、施行に際しての留意事項は、「保育所保育指針等の施行等について」（本日付け雇児発第0328001号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）により通知した事項のほか、下記のとおりであるので、十分留意の上、貴管内の関係者に対して遅滞なく周知し、その運用に遺憾のないよう御配慮願いたい。

なお、本通知は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の4第1項の規定に基づく技術的助言である。

記

第1 保育所保育指針の保育現場等への周知関係
 保育所保育指針の趣旨・内容が、市町村の担当者や各保育所など保育の関係者に十分理解され、同指針が保育現場における実践に日常的に活用されるよう、施行されるまでの間に、保育所の職員を対象とした研修の充実や市町村等の担当者に対する十分な周知等が必要であること。

また、保育所のみならず、家庭的保育事業や認可外保育施設などの保育現場においても、各々の状況に応じて同指針を参考として児童の処遇がかわれるよう、関係者への周知を図るとともに、子育て中の保護者にも理解されるものとなるよう、広く社会への伝達及び普及を図ること。

第2 保育所保育指針に関する指導監査関係
 保育所保育指針が、児童福祉施設最低基準の一部を改正する省令（平成20年厚生労働省令第57号）による改正後の児童福祉施設最低基準（昭和23年厚生省令第63号）第35条に基づく告示となることに伴い、児童福祉法（昭和22年法律第104号）第46条第1項に基づき都道府県等が行う児童福祉施設最低基準に関する指導監査の一環として、同指針の遵守状況に関する指導監査を行うこととなること。

ただし、保育の質を向上させるための各保育所における創意工夫や取組を促すことが重要であることに伴い、発示化よりすべての保育所が遵守すべき最低基準として位置付けられることに伴い、従来の保育所保育指針（「保育所保育指針について」（平成11年10月29日児童第799号厚生省児童家庭局長通知）の別添として定めた保育所保育指針をいう。）から内容の大綱化を図ったものであること。

したがって、各都道府県等における「児童福祉行政指導監査の実施について」（平

成12年4月25日厚生省児童家庭局長通知）に基づく保育所の指導監査については、保育所保育指針において、具体的に職務や努力義務が課せられている事項を中心に、子どもの発達に応じた適切な保育が行われているかどうか、また、そのための適切な運営が行われているかどうかについて、各保育所の創意工夫や取組を尊重しつつ、実施すること。

なお、その際には、他の事項に関する指導監査とは異なり、取組の結果のみに着目するのではなく、取組の過程（保育実践及びその振り返り、自己評価の取組等）についても尊重する必要があることに留意すること。

また、保育所保育指針の参考資料として取りまとめた「保育所保育指針解説書」については、法的拘束力を有するものではなく、指導監査の際に、同解説書に基づく指導等を行うことのないよう留意すること。

第3 保育所児童保育要録関係
 第4章の1の（3）のエ（小学校との連携）において、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から就学先となる小学校へ送付されるようにすることとされたが、当該資料に関する様式、取扱い等については以下のとおりであること。

1 資料の様式等について
 各市町村において、当該子どもの育ちを支えるための資料の様式を作成し、管内の保育所に配布すること。

様式については、「保育所児童保育要録」として別添1のとおり参考例を示すため、各市町村において、これを参考として地域の実情等を踏まえ、創意工夫の下、様式を作成すること。

2 保育所児童保育要録の作成、送付等について
 子どもの育ちを支えるための資料（以下「保育所児童保育要録」という。）の作成、送付、保存等については、以下の取扱いに留意すること。

また、各市町村においては、保育所児童保育要録が小学校に送付されることについて市町村教育委員会にあらかじめ周知を行うなど、市町村教育委員会との連携を図ること。

(1) 施設長の責任の下、担当の保育士が記入すること。
 (2) 作成した保育所児童保育要録については、その写しを児童の就学先となる小学校の校長に送付すること。

3 保育所は、作成した保育所児童保育要録の原本について、保育所児童保育要録の趣旨にかんがみ、当該児童が小学校を卒業するまでの間保存することが望ましいこと。

3 個人情報保護の観点からの留意事項について
 保育所児童保育要録は、児童の氏名、生年月日等の個人情報を含むものであるため、個人情報保護の観点から、児童の氏名、生年月日等の個人情報を含む保育所児童保育要録の趣旨及びその内容とともに、保育所児童保育要録が就学の小学校に送付されることを周知しておくことが望ましいこと。

(1) 公立保育所については、各市町村が定める個人情報保護条例に準じた取扱いとすること。

(2) 私立保育所については、当該保育所が個人情報の保護に関する法律第2条第3項に規定する個人情報取扱事業者に該当する場合には、原則として個人情報を第三者に提供する際には本人の同意が必要となるが、保育所児童保育要録については、例外的に同意が不要となる場合を定めた同法第23条第1項第1号（法令に基づく場合）に該当するため、第三者提供について本人（保護者）の同意は不要であること。

4 小学校との連携について
 保育所保育指針において、保育所児童保育要録の小学校への送付が定められるとともに、今般改正された「小学校学習指導要領」（平成20年文部科学省告示第27号）（別添2）においても、小学校と保育所との連携が新たに盛り込まれたところである。

これらを踏まえ、保育所、幼稚園及び小学校の連絡協議会の設置等により交流の機会が設けられ、相互理解が深められることが期待されるが、各市町村においても、市町村教育委員会をはじめとする関係部局と連携し、これらの取組を支援・推進すること。

〈資料 8〉 要録記入者用アンケート

平成22年 8月

保育要録に関するアンケート (要録記入者用)

1 あなたご自身のことについてお聞きします。

① あなたの性別は
ア 男性 イ 女性

② あなたの年齢は
ア 20～23歳 イ 24～26歳 ウ 27～29歳 エ 30代 オ 40代 カ 50代

③ 保育士の経験年数は
ア 1～3年 イ 4～6年 ウ 7～9年 エ 10～15年 オ 15年以上

④ かつて幼稚園に勤務し、幼稚園指導要録を記入した経験はありましたか。
ア ある イ ない

2 要録の記入に関しての状況についてお聞きします。

① 保育要録を記入した子どもの人数を教えてください。
() 人

② 記入前に園外研修等を受けましたか
ア 受けた (回) イ 受けない

③ 要録に関して園内研修を行いましたか
ア 行った イ 行わなかった

④ 記入後、記述内容がどこかで確認しましたか * 複数回答可
ア 園長 イ 主任 ウ 同僚 エ その他 ()

⑤ 記述内容を何回見直ししましたか
ア 1回 イ 2回 ウ 3回以上

3 要録の記入時に感じたことをお聞きします。

① 一番記入しづかった項目はどれですか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項 ク 特になし

② 二番目に記入しづかった項目はどれですか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項 ク 特になし

③ 一番記入しやすかった項目はどれですか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項 ク 特になし

④ 記述内容ができていない項目がありましたか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項
(と) (と) (と)

⑤ 要録に子ども一人一人についての伝えたいことが記入できていたと思いますか
ア 記入できたと思う イ ほぼ記入できたと思う
ウ あまり出来なかったと思う エ 出来ていないと思う
オ 記入するのは無理だと思う カ 出来た子と出来ない子がいたと思う
キ その他 ()

3 要録を記入するためにもっと理解、或いは把握しておきたかったことはありますか。
① 子どもの育ちに関わる事項に関して ()
② 養護に関わる事項に関して ()
③ 教育に関わる事項に関して
ア 心情・意欲・態度について イ 発達の観測について
ウ 玉領域について エ 指導上の配慮事項について
オ その他 ()

4 要録を記入する上で、迷ったり困ったりした事を具体的に記入下さい。

5 要録を記入する上で保育者としてもっと身につけることが必要と感じた事柄はありますか。

6 要録がどのように活用されることを希望していますか。

7 その他、今保育者として感じていることがあれば記入下さい。

アンケートへの御協力ありがとうございました

〈資料 9〉 記入内容確認者用アンケート

平成22年 8月

保育要録に関するアンケート (記入内容確認者用)

*1施設で複数ないらっしゃる場合は確認した方皆さんに記入頂けると幸いです。

1 あなたご自身のことについてお聞きします。

① あなたの性別は
ア 男性 イ 女性

② あなたの年齢は
ア 20代 イ 30代 ウ 40代 エ 50代 オ 60代 カ 70代以上

③ あなたの職種は
ア 園(所)長職 イ 主任職 ウ 保育士職 エ その他 ()

④ 園(所)長・保育士・教諭等の通算経験年数は
A 園(所)長のみ B 保育士のみ C 複数職種通算(職名)
ア 10年未満 イ 10～15年 ウ 16～20年 エ 21～25年 オ 26年以上

⑤ 幼稚園指導要録を記入或いは記入内容を確認した経験はありますか。
ア ある イ ない

2 確認した要録に関しての状況についてお聞きします。

① 何人の保育要録を確認しましたか。
() 人

② 要録についての園外研修等を受けましたか
ア 受けた (回) イ 受けない

③ 要録に関して園内研修を行いましたか
ア 行った イ 行わなかった

④ 送付前に記入内容の確認は何名が行いましたか
ア 1名 イ 2名(と) ウ 3名(と と) = 4名以上

3 記入内容を確認した際に感じたことをお聞きします。

① 記入内容を確認する際に、視点で一番迷った項目はどれですか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項 ク 特になし

② 記入内容の視点で二番目に迷った項目はどれですか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項 ク 特になし

③ 一番確認しやすかった項目はどれですか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項 ク 特になし

④ 記入内容がどぶがらと感じた項目はありましたか
ア 子どもの育ちに関わる事項 イ 特記事項
ウ 生命の保持 エ 情緒の安定等
オ 子どもの健康状態等 カ 子どもの発達の状態
キ 指導に必要と考えられる配慮事項
(と) (と) (と)

⑤ 要録に一人一人の子どもの伝えたいことが記入できていたと思いますか
ア 記入できたと思う イ ほぼ記入できたと思う
ウ ほぼ出来なかったと思う エ 出来ていないと思う
オ 記入するのは無理だと思う カ 出来た子と出来ない子がいたと思う
キ その他 ()

3 要録の記入内容を精査するために事前にもっと理解、或いは把握しておきたかったことはありますか。
① 子どもの育ちに関わる事項に関して ()
② 養護に関わる事項に関して ()
③ 教育に関わる事項に関して
ア 心情・意欲・態度について イ 発達の観測について
ウ 玉領域について エ 指導上の配慮事項について
オ その他 ()

4 記入内容を確認する上で迷ったり、困ったりした事を具体的に記入下さい。

5 要録を記入する保育者が身につけることがさらに必要と感じた事柄はありますか。
また、園としてそのための手立を考えていますか。

6 要録の記述内容を確認するためにもっと自分が身につけたと感じた事柄はありますか。

7 要録がどのように活用されることを希望していますか。

8 その他、要録に関して何かありましたら記入下さい。

アンケートへの御協力ありがとうございました

〈資料10〉要録記入者のアンケート集計結果

要録記入者へのアンケート調査

藤女子大学 吾田富士子
まこと保育園 眞鍋 尚美

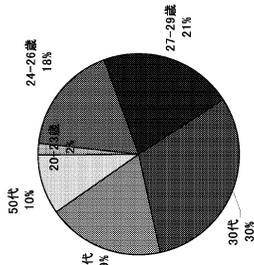
調査対象：札幌市内全認可保育園の
要録記入者

調査時期：2010年8月

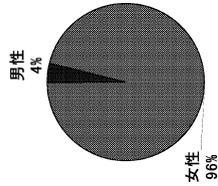
調査用紙回収：フアックス

回収数：155

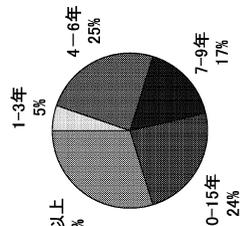
年齢



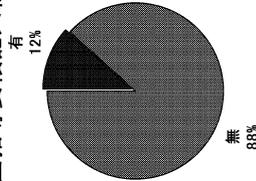
性別



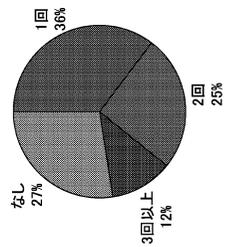
保育士経験年数



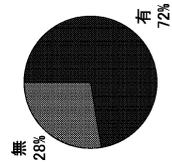
幼稚園指導要領記入経験



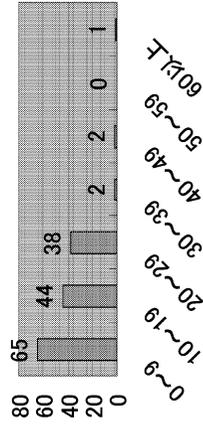
要録に関する園外研修



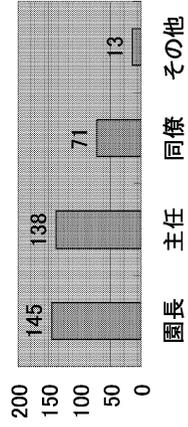
要録に関する園内研修



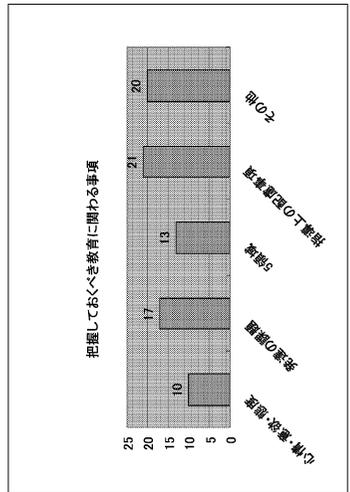
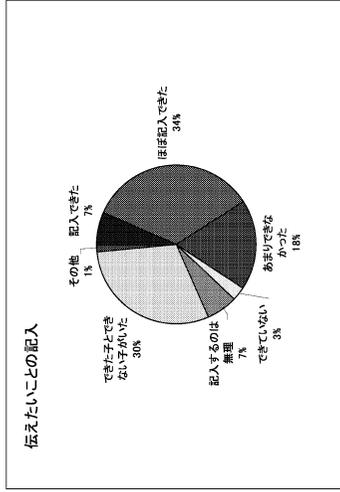
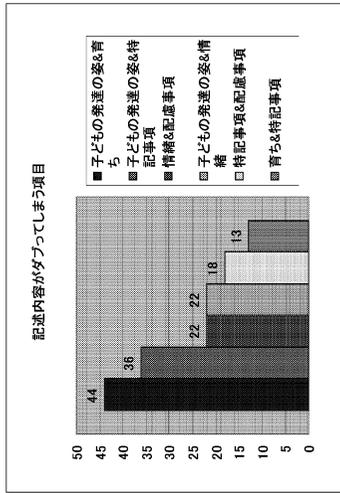
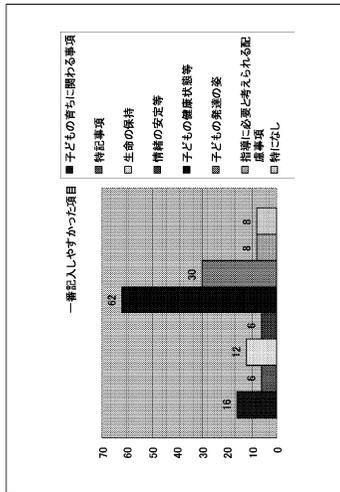
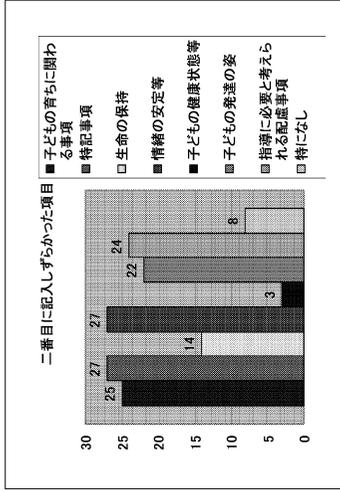
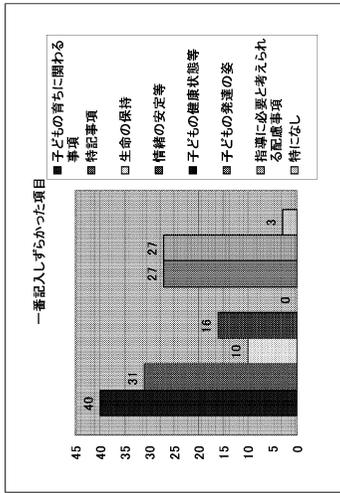
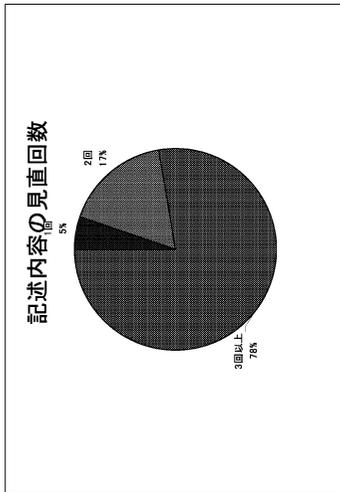
記入要録数



記入後の確認者



〈資料 10〉 つづき



〈資料11〉記入内容確認者のアンケート集計結果

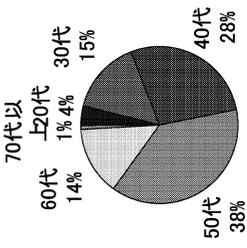
要録確認者へのアンケート調査

藤女子大学 香田富士子
まこと保育所 真鍋 尚美

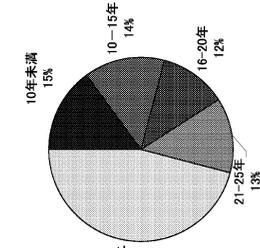
調査対象：札幌市内全認可保育園の
要録確認者

調査時期：2010年8月
調査用紙回収：フアックス
回収数：122

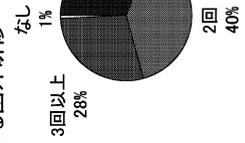
年齢



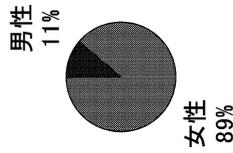
通算経験年数



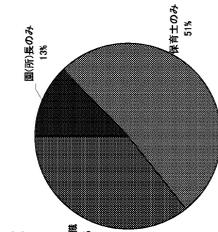
要録に関する園外研修



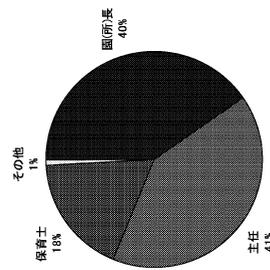
性別



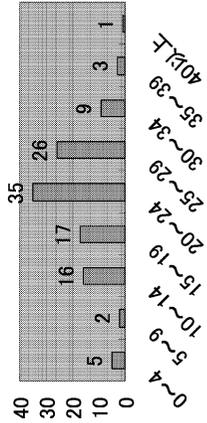
職種の通算経験



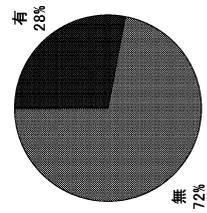
職種



確認要録数

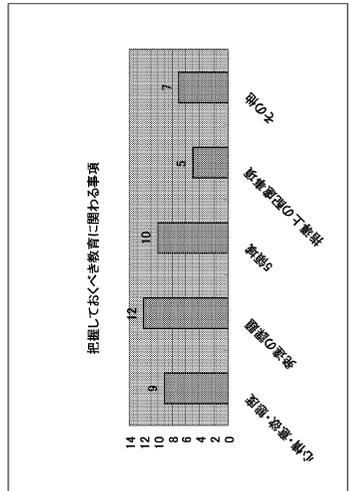
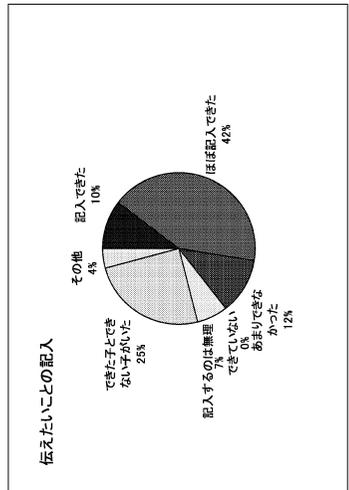
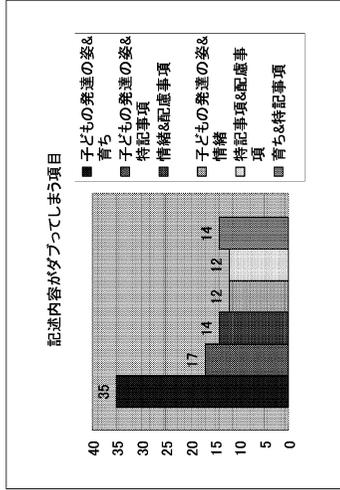
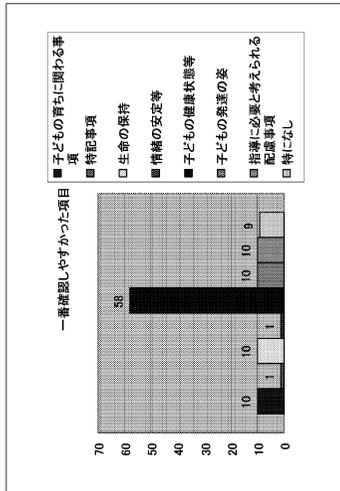
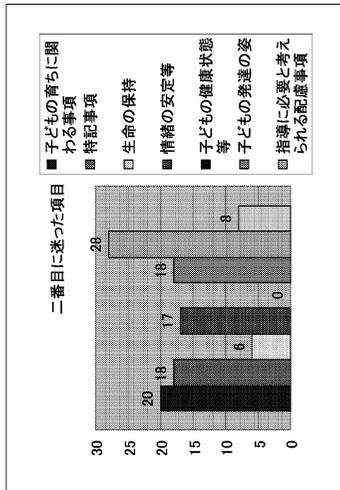
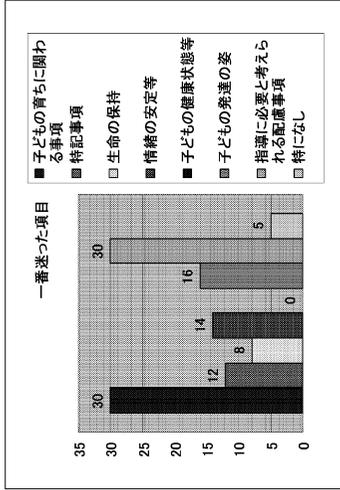
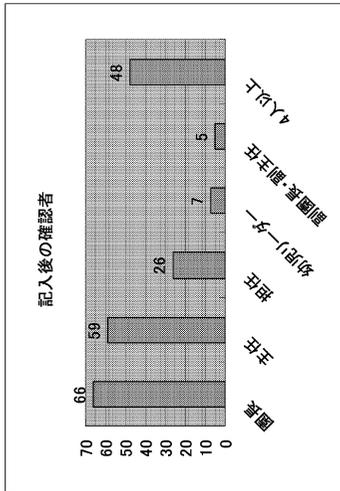
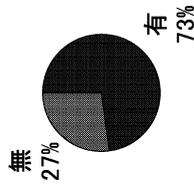


幼稚園指導要録記入・確認経験



〈資料11〉 つつき

要録に関する園内研修



〈資料12〉 記入者自由記述抜粋

〈記入者用 自由記述抜粋〉		同様の意見数
3 要録の記入時に感じた事をお願いします。		
⑤ 要録に一人一人の子どもの伝えたいことが記入できていたと思いますか		他 2 名
・ 情報公開の事を考えよ、記入は難しいことがあった。(20代後・女性)		
・ 伝えたいことは山ほどあるのに、小さな欄にまとめるのがとても難しかった。(20代後・女性)		他 2 名
・ 大切なその子の特性を多少は伝えることが出来たと思う。(30代・女性)		その他 2 名
4 要録を記入する上で、迷ったり困ったりした事を具体的に記入下さい。		
・ 親以外で、わかりやすく記入していく方法が考え、時間がかかりましたがとても良い経験でした。(40代女性)		
・ 記入する時に、その子の姿を理解してもらえようという文章で表現するのが難しかった。(40代女性)		
・ 今後を配慮して欲しい点を初稿のように伝わりやすいように記入することが難しかった。(20代後・女性)		
・ マイナスの面の書き方(伝え方)。(20代前男性)		他 47 名
・ 子どもの現状が保護者への開示があるため詳しく書くことが出来なかった。(20代前女性)		
・ 保護者の方が見られる可能性もあることなので、言葉を選びながら書くのが大変でした。どこまでの様子を書いたら良いのか迷いました。(30代女性)		
・ 保護者に見せても支障のない内容、文章を書く必要がある。それを配慮して書くこととすると、実際の子どもが伝わらない文章になったり、閉ざるを得なくなることが多い。(50代女性)		他 23 名
・ 内容的にだぶってしまうことや項目としてどこに記述するか。(50代女性)		
・ 特記事項を記載する必要がある配属事項が同じ内容になってしまってもあったことでも記入箇所が小さかったりで、一緒にしても良かった。(子どもへの育ちに関する事項がもう少し大きくても良い)。(20代後・女性)		他 17 名
・ 書きたい事柄を箇条書きにまとめて書くことが難しかった。(30代女性)		
・ 子どもの育ちに関する事項の中で入所した頃から記入するのが難しかった。スペースも狭く、6年間のことを書くのは大変でした。(20代前女性)		他 15 名
・ 家庭環境について、どこまで詳しく書いて良いかわからなかった。(20代中・女性)		
・ 子どもの育ちの中で関係点となる部分をどこまで書いて良いのかわからなかった。(40代女性)		他 10 名
・ 言葉使いが過去形の前と現在形の前があっただけで、でた。～していた。です。～である。など。(20代前女性)		
・ 色々な例題を見て、迷ったか困りました。この様な書き方と1つのものを決めてもらえると助かります。(40代女性)		他 8 名
・ 今回の要録を記入する事が初めてだったので、小学校の先生がどのように活用しているか、どうしたら読みやすい要録になるか必要な事を振り返り1枚の紙にまとめるのが大変だった。(30代女性)		他 4 名
・ 子どもたちの小さい頃の育ちについて、職員が働動してわからないのが難しかった。(20代前女性)		他 4 名
・ 資料担当者で各項目について、一人ひとり確認しながら行ったが確認の相違点ももあり、細かい点も確認が必要であった。記入の方向性について、事前に話し合い統一したものが当園の中で必要だったかと思う。(50代女性)		他 2 名

・ はじめての要録で、個人の不利になる事は書いてはいけないとの事で、どういう書き方かその子の特性に伝わる事があるか、また、伝わるのか悩んだ。文章にするより、連絡会などで連絡図が書けるを増やした方が良かったのでは、と感じました。(30代女性)		他 1 名
・ 研修では、できるだけオープン率に込み、本来の姿を記入したいという話だったが、その子によって伝えたい内容は内実についてお率直に記入した。(30代女性)		他 1 名
・ 要録を書くのは初めてで、どのように書いていけばいいの不安を持ちながらも書いていきました。支障無い程度で、どの子にも同じことを書いていたら、その子の特徴、その子はこういう子かと思えるような書き方を書いていく、今まで自分はこの子たちとどう関わって、保育をしてきたのかと考えさせられました。(30代女性)		その他 6 名
5 要録を記入する上で保育者としても身につけることが必要と感じた事柄はありますか。		
・ 箇条書きで正確な文章表現の仕方。(40代女性)		
・ 読み手がすぐ子どもであるかということがわかる様な文章を記入すること。(20代後・女性)		
・ 記録の仕方、文章表現について、相手が見てわかりやすいように、又、伝わりやすいようにする方法をもっと勉強しておけばよかった。(40代女性)		
・ 文章力、造詣になること。(30代女性)		他 64 名
・ 様々な方向から成長を捉えること。(20代前女性)		
・ 親々の発達面や情緒をより観察し、把握しておく必要性を感じた。(20代後・女性)		
・ 子どもの発達をもっと観察し、把握し、把握しておく必要性を感じた。(20代後・女性)		他 33 名
・ 子どもの発達をもっと観察し、把握し、把握しておく必要性を感じた。(20代後・女性)		
・ 日々の子どもの記録や発達事項を、目頭から記入しておくことが必要と感じました。(30代女性)		
・ 個人記録の整理(0歳~6才)までの記録が膨大な量の備蓄にまとめておく必要があった。(30代女性)		他 18 名
・ 保育要録の記入の仕方をしっかり理解する必要がある、一人一人の育ちの理解、把握をする視力が必須だと思ふ。(30代女性)		他 6 名
・ 彼等から子どもの育ちの育ちを促進して保育者力がとても必要と感じた。(30代女性)		他 6 名
・ 養育と日常的に子どもの成長や課題をもめコミュニケーションを取ることは大切だと思ふ。(30代女性)		他 3 名
・ 子どもの姿を多面的に見直すきっかけとなったので、保育士同士の意見交換や情報交換や共有がまだ足りなかったと思ふ。(40代女性)		他 1 名
・ 小学校で何をどうするか、小学校との連携、子どもの発達と性格に揃える方。(40代女性)		他 1 名
		その他 0 名
6 要録がどのように活用されることを希望していますか。		
・ 子ども達の心の育ちが理解できるように、目に見える良い所だけでなく、どのような子ども達が感じているのかを察知するために理解してもらえらるような活用をしてみたい。(20代中・女性)		
・ 就学後、心身ともに健やかに育っていくことができ、一つの記録として活用してほしいと思ふ。(40代女性)		
・ 困ってから見るとはならず、子どもの成長で良かった、課題を見つめ、学んで対応してほしい。しかし、それだけで十分な家も受け止めてほしい。(20代後・女性)		
・ 子どもの持つ良さを大切に伸ばしていくこと、家庭等、関わる関係者子どもの理解。(50代女性)		

〈資料13〉 確認者の自由記述抜粋

・ 一人一人の子どものよりよい成長とその子への理解のために、役立ててほしい。要録も必要な記録や記録できるように活用してほしい。(40代女性)		他 104 名
・ この記録を第一現場に学校と保育園との連携が深まり、お互いの情報交換が円滑になると良いと思う。(40代女性)		
・ 一人一人の状況を把握し、特に個別に援助が必要な子どもの対応を引き続き関わって欲しい。(20代中・女性)		他 7 名
・ 小学校の先生が、必ず目を通して頂ければ、たまそだけで、子どもに関わる時の心の余裕に働いてほしい。(30代女性)		他 6 名
・ クラス編成の時など、気になる子が増えているのでクラスに属することのないように参考に活用してほしい。(50代前女性)		他 4 名
・ 育ちのプロセスとしてあくまでも参考として(決めつけ)に注目してほしい。(50代女性)		他 3 名
・ 一年生の担任だけでなく、長く活用し、子ども達の発達に大いに生かしてほしい。(40代女性)		他 1 名
		その他 0 名
7 その他、今保育者として感じていることがあれば記入下さい。		
・ 要録を通して、小学校と保育園や幼稚園との連携をもっと大切にしていただけるといいと思う。(20代後・女性)		
・ 親学の子どもの様子を知る機会があれば、良いと感じた。(30代女性)		
・ 特別になる子ではなくても、子どもの引き返さず直接会って小学校としていくことは大切と感じた。(20代後・女性)		
・ 要録のみではなく、就学後の成長・発達に向け必要に応じて連携していきたい。(50代女性)		他 18 名
・ 今回の要録に当たり、記録を直すということでも、子どもを見守っていた。要録を書いたことで、さらに子ども達の成長をしっかりと見ていこうという思いになりました。(20代中・女性)		
・ 主体となる子どもが大切に思い環境を整えていけるか、一人一人の子どもの成長のペースに自分自身の成長も、遅くならないようにしたい。(30代女性)		他 7 名
・ スムーズな小学校生活が始まるスタート出来るように十分に保育要録を活用していくことを願っています。(30代女性)		
・ 苦労して要録を書きあげたので、小学校の先生にも活用してもらい、子ども達が生き生きと生活できるといいと思います。(30代前男性)		他 7 名
・ 学校に提出して書類が学校でどこまで必要と、役立てられているのかクラス担当になった先生は目を通してきているのか(見ない方もいる)か。(30代前女性)		
・ 実際のこの要録がどのように利用されるのか、今後どのようにしていったらお互い(保護者)を学校にとって意識のある要録になるか、加わりたいと思う。(40代女性)		他 6 名
・ 指導計画、成長の記録を常に作り置きとあてておくことが大事だと思います。教育、保育は人なりな環境が常に大事だと思います。(20代前女性)		他 4 名
・ 様々な家庭が育ち、子ども達の保育者とともに親々の支援も重要な存在になってきていると感じる。(40代女性)		他 3 名
・ 確かな記録を残すことは、自分の保育を振り返り、反省や喜びを明日から保育に生かすことが出来るため、自身の成長に繋がると感じた。反面、記録に費やす時間を子ども達より多く感じている。(50代前女性)		他 3 名
・ 育ちの記録、保育の積み重ねが要録の中に残され、ひとつの成果が公的に出来たと同時に記録の責任を感じている。(40代女性)		他 1 名
・ 要録の内容がしっかり整理され記入しやすいものにして欲しい。(30代女性)		他 1 名
・ 要録の記入に関しては、どの職員も解らないことが多いので、是非研修会等を開いていただきたい、思います。(50代女性)		その他 3 名

〈記入内容確認者用 自由記述抜粋〉		同様の意見数
3 記入内容を確認した際に感じた事をお願いします。		
⑤ 要録に一人一人の子どもの伝えたいことが記入できていたと思いますか		他 4 名
・ 文字に残るため書きにくい事がある。(40代前男性)		
・ 出来る所から、小学校の先生と直接話し合いつながりがある。(50代女性)		
・ なんでも出来て気持ちも安定しているの表記が、少なからず気になる子が多くも記入されていたように思う。(50代・女性)		その他 1 名
3 要録の記入内容を確認するために事前にもっと理解、或いは把握しておきたかったことはありますか		
① 子どもの育ちに関する事項に関して		
・ 入園当初からの様子を個人記録として記載しておく必要性を感じました。(40代・女性)		
・ 入園してからの子の書き込みで、自分が受け持っていない育ちについての理解も必要。(30代・女性)		他 22 名
・ 記入すべきポイントの整理。(30代・女性)		
・ 子どもの性格、性別などの程度まで記載すべき。(60代・女性)		他 4 名
・ 子どもの育ちの記録(良い記録だけでなく、記録を活用して記入することができた)。(30代・女性)		他 2 名
・ 家庭での様子や育ちについての確認が必要だった。(40代・女性)		他 2 名
・ どの事柄がどの欄に書かれるのかよく理解できずにはいりました。(20代・女性)		他 2 名
・ 勤務は幼児保育園であるため、子どもの乳児期における育ちの部分が把握できなかった。(50代・女性)		他 2 名
・ 入所時の連絡簿、生活歴、家庭の連携、日々の保育の中で確認して保育していますが、よりその子を理解した内容になっているのだろうかという点で。(50代・女性)		その他 3 名
② 養育に関する事項について		
・ 日々の子どもの育ちの様子をもっと細かく記録する必要性を感じた。(50代・女性)		他 7 名
・ 情緒の安定の内容の理解と自己肯定感の子どもの姿の理解。(30代・女性)		他 3 名
・ 家庭の養育状況及び成長についての情報。(60代・男性)		他 2 名
・ 特に困ることは無かった。(60代・女性)		他 1 名
・ 日々の状況を把握して記入の為、書きやすかった。(30代・女性)		
・ どの事柄がどの欄に書かれるのかよく理解できずにはいりました。(20代・女性)		その他 4 名
③ 教育に関する事項に関して		
オ、その他		
・ 一人ひとりの子どもに対しての、様々な発達に関する内容。(40代・女性)		
・ 意欲などの見え方は人により発達差があったのでいろいろな所での様子を評価していたのを知ることがあった。(50代・女性)		他 3 名
・ 保育内容や正確な成長の伸びを自分で整理して書くべきだった。(20代・男性)		他 1 名
・ 子どもの課題について、引き続き見守ってほしい部分の記入は書きやすかった。(30代・女性)		
・ 記録があることで好ましい。(30代・女性)		

